

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析について

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象 小学校6年生、中学校3年生

3 実施日 2022年4月19日（火）

4 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

(1) 教科別平均正答率（全国より上回っているもの、下回っているもの）

【小学校】

		国語	算数	理科
平均 正答率	町田市	65.0	63.0	64.0
	全国	65.6	63.2	63.3
	東京都	69.0	67.0	65.0
割合 ※1	町田市	99	99	101
	東京都	105	106	102

- 国語は、全国より0.6ポイント、東京都より4ポイント下回っている。
- 算数は、全国より0.2ポイント、東京都より4ポイント下回っている。
- 理科は、全国より0.7ポイント上回っているが、東京都より1ポイント下回っている。

【中学校】

		国語	数学	理科
平均 正答率	町田市	69.0	52.0	50.0
	全国	69.0	51.4	49.3
	東京都	70.0	54.0	51.0
割合 ※1	町田市	100	101	101
	東京都	101	105	103

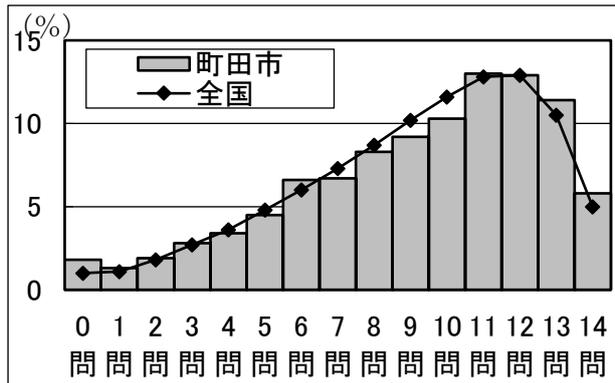
- 国語は、全国ど同ポイントだが、東京都より1ポイント下回っている。
- 数学は、全国より0.6ポイント上回っているが、東京都より2ポイント下回っている。
- 理科は、全国より0.7ポイント上回っているが、東京都より1ポイント下回っている。

※1 全国を100とした時の割合

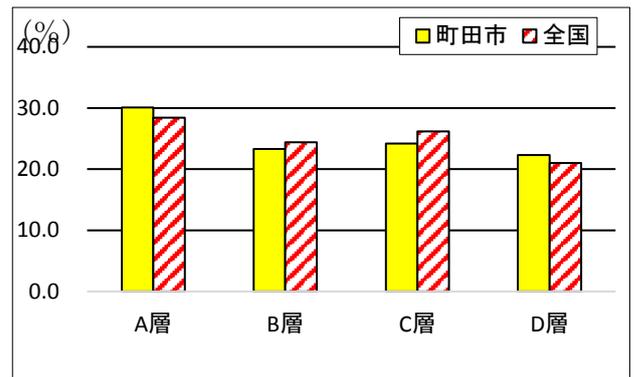
(2) 小学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		14	65	65.6	69
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	2	69.5	66.2	69.1
	書くこと	2	46.6	48.5	51.3
	読むこと	4	69.5	66.6	72.1
知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	67.5	69.0	71.4
	情報の扱い方に関する事項	0			
	我が国の言語文化に関する事項	1	68.3	77.9	75.5

【問題ごとの平均正答率】

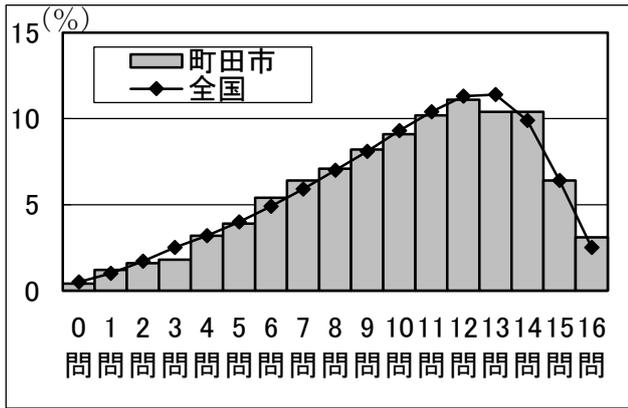
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	86.4	85.5	88.2
1二	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	70.6	68.8	71.5
1三	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える	85.6	84.7	87.1
1四	互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	53.4	47.7	51.1
2一(1)	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	71.7	68.4	73.9
2一(2)	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える	76.2	70.6	77.7
2二	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	68.7	68.3	71.7
2三	表現の効果を考える	61.3	59.2	65.1
3一	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える	57.6	59.2	63.6
3二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	35.6	37.7	39.0
3三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	63.0	65.2	67.5
3三イ		55.7	58.7	61.9
3三ウ		61.7	67.1	67.8
3四	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く	68.3	77.9	75.5

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

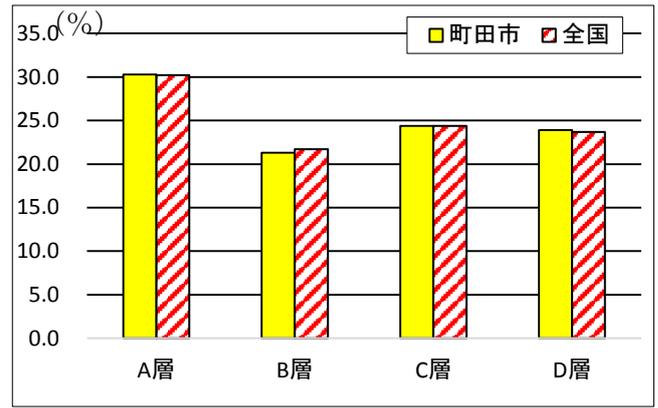
- 四分位の正答数内訳では、A層及びD層の割合が全国よりも多い。
- 観点別の平均正答率では、「書くこと」が全国より2ポイント程度低い。
- 「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」の項目や、「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」の項目は、6ポイント程度高い。
- 問題別では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の項目や、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」の項目が、全国より2~8ポイント低い。
- 同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。また、相手にとって読みやすいかということ意識して書くことも併せて指導していく必要がある。

②算数

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	63	63.2	67
知識・技能	9	68.8	68.2	72.4
思考・判断・表現	7	56.4	56.7	60.5

【問題ごとの平均正答率】

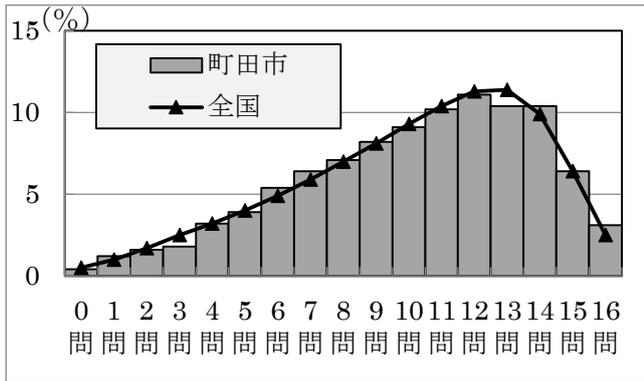
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1(1)	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	93.3	92.4	93.5
1(2)	二つの数の最小公倍数を求めることができる	70.8	72.2	76.0
1(3)	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	71.3	76.0	72.4
1(4)	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	36.5	34.8	40.7
2(1)	百分率で表された割合を分数で表すことができる	73.5	71.1	76.8
2(2)	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	68.4	64.6	72.3
2(3)	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	23.6	21.4	29.1
2(4)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	46.4	48.0	52.2
3(1)	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	74.2	75.3	79.5
3(2)	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	67.4	63.9	70.1
3(3)	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	66.3	66.8	67.7
3(4)	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	66.7	67.7	70.5
4(1)	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	47.9	48.8	55.6
4(2)	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	81.7	83.2	85.7
4(3)	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	67.0	66.5	70.8
4(4)	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	58.6	57.6	62.1

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

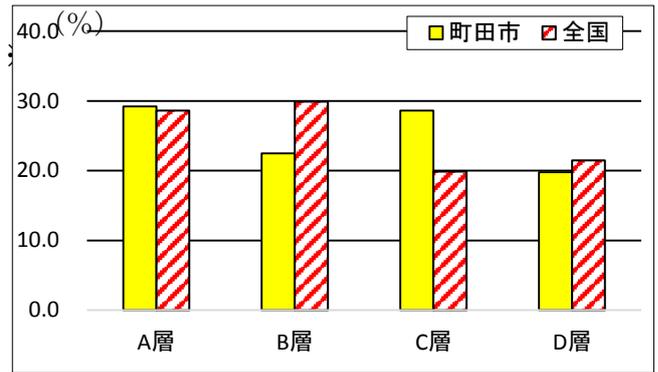
- 四分位の正答数内訳では、全国とほぼ同じ。
- 観点別では、多少の上下はあるがほぼ全国と同じ。
- 問題別では、「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」の項目や、「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」の項目については、全国より3ポイント以上高い。しかし、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」の項目については、**全国より4ポイント以上低い**。
- 絵や図、文章等から問題場面の数量関係に着目し、それがどのような場面かを解釈したり、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりする学習を取り入れる。また、見いだした性質を活用して、計算を工夫したり、計算の確かめをしたりする活動も行う。

③理科

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	17	64	63.3	65
知識・技能	6	63.2	62.5	63.6
思考・判断・表現	11	64.6	63.7	66.5

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1(1)	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	93.2	92.9	93.9
1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	67.3	67.5	70.1
1(3)	昆虫の体のつくりを理解している	72.5	73.1	75.1
1(4)	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	76.7	76.1	79.0
1(5)	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	67.1	65.5	68.7
2(1)	メスシリンダーという器具を理解している	70.2	67.8	64.2
2(2)	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	73.7	70.0	72.0
2(3)	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	65.8	62.8	68.5
2(4)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	41.1	39.3	41.8
3(1)	日光は直進することを理解している	26.5	27.8	26.8
3(2)	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	77.0	74.4	78.1
3(3)	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	70.7	68.9	71.5
3(4)	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	33.6	35.1	37.0
4(1)	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	84.3	82.3	85.0
4(2)	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	65.4	64.5	68.6

4(3)	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	45.1	45.5	47.8
4(4)	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	59.2	62.0	65.4

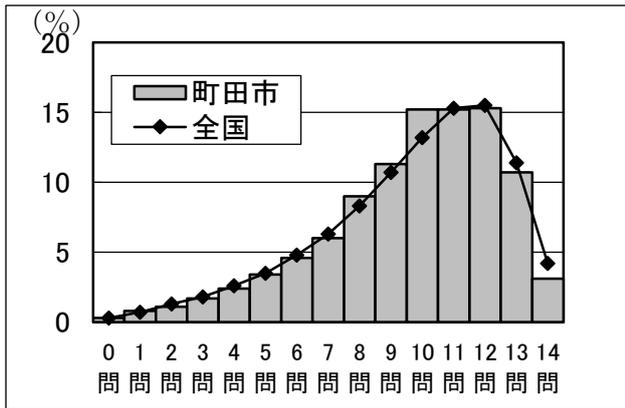
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、B層の割合が全国よりも少なく、C層の割合が全国よりも多い。
- 観点別では、どちらも全国の平均より高い。
- 問題別では、「メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている」の項目と、「自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる」の項目については、全国より3ポイント以上高い。「水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している」の項目については、全国の平均から2ポイント以上低い。
- 子どもたちが主体的に問題解決をする中で知識を習得できるように、動画や写真などを示して事象提示を工夫したり、問題解決の中で得た知識をより深く理解できるように、習得した知識を活用して日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定したりしていくことが必要である。

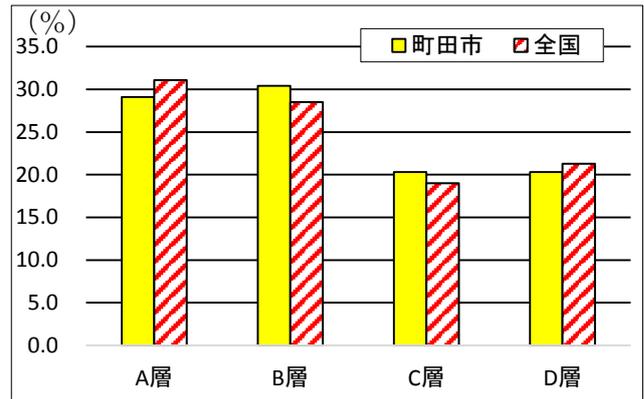
(3) 中学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		14	69	69	70
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	63.7	63.9	65.7
	書くこと	1	42.3	46.5	43.8
	読むこと	2	69.3	67.9	70.8
知識・技能	言語の特徴や使い方に関する事項	6	72.2	72.2	73.6
	情報の扱い方に関する事項	1	42.3	46.5	43.8
	我が国の言語文化に関する事項	3	69.8	70.2	70.9

【問題ごとの平均正答率】

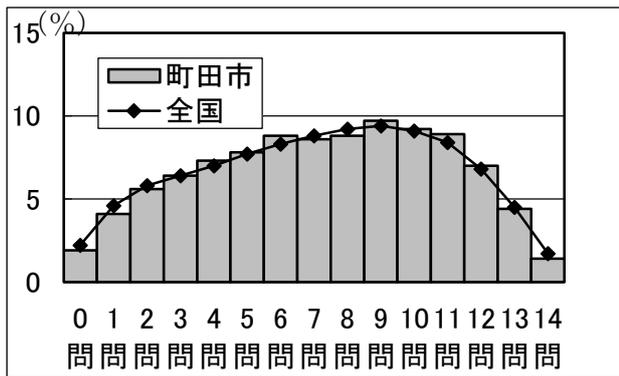
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	72.7	74.7	74.0
1二	論理の展開などに注意して聞く	66.9	65.1	69.1
1三	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	51.6	51.8	54.1
2一	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	83.9	82.3	84.3
2二①	文脈に即して漢字を正しく書く	82.2	82.1	82.8
2二②		80.5	80.5	79.1
2三	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	42.3	46.5	43.8
3一	表現の技法について理解する	50.8	52.5	55.1
3二	事象や行為、心情を表す語句について理解する	84.3	84.0	86.0
3三	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	63.4	62.0	64.9
3四	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	75.3	73.8	76.6
4一	行書の特徴を理解する	37.5	39.4	39.6
4二	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	90.9	90.1	90.8
4三	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	80.9	81.1	82.3

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

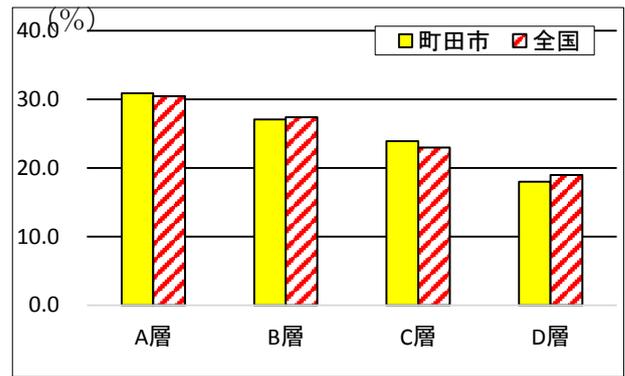
- 四分位の正答数内訳では、A層の割合が全国よりも少ない。
- 観点別では、読むことの内容で全国よりも平均正答率が高い。
- 問題別では、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」の項目が、全国よりも4ポイント以上低い。
- 比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について指導する。また、自分の考えが、確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認したり、その根拠を文章の中に記述する必要があることを理解したりできるように、書いた文章を互いに読み合い、修正案を考えるなどの学習を取り入れる。

②数学

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	14	52	51.4	54
知識・技能	9	59.6	59.9	62.4
思考・判断・表現	5	37.7	36.2	39.7

【問題ごとの平均正答率】

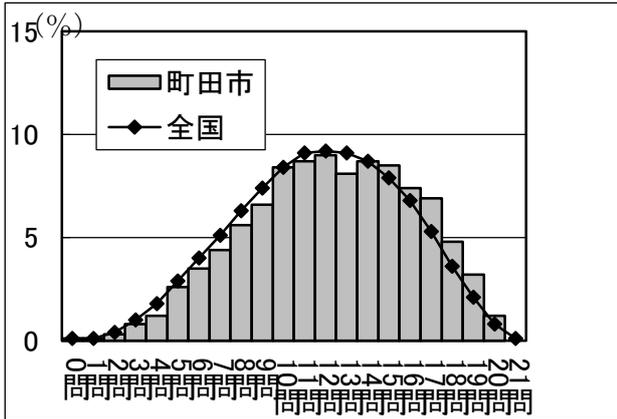
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1	自然数を素数の積で表すことができる	42.4	52.2	47.6
2	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	75.3	74.5	78.6
3	反例の意味を理解している	45.4	44.9	48.1
4	一次関数の変化の割合の意味を理解している	36.6	37.9	41.0
5	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	84.0	83.3	85.4
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	76.0	73.8	78.2
6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	50.7	48.7	52.5
6(3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	38.2	37.6	40.7
7(1)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	45.4	44.0	47.0
7(2)	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	43.0	44.1	46.2
8(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	57.2	54.6	58.5
8(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	39.4	38.4	41.8
9(1)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	76.5	73.2	78.1
9(2)	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	14.8	12.5	16.7

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

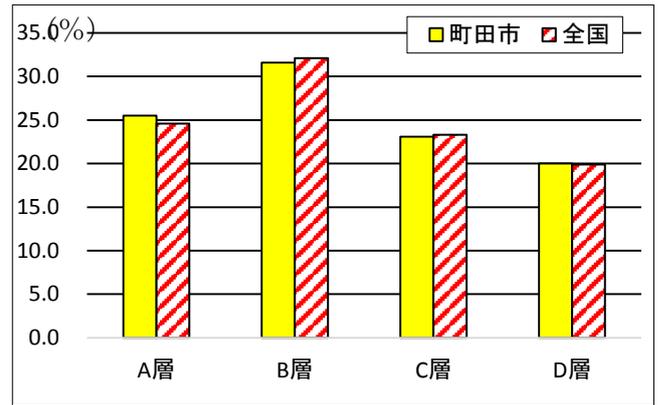
- 四分位の正答数内訳では、D層の割合が全国よりも少ない。
- 観点別では、思考・判断・表現の項目で国よりも平均正答率が1ポイント以上高い。
- 問題別では、「自然数を素数の積で表すことができる」の項目が全国よりも10ポイント程度低い。「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」の項目が全国より3ポイント以上高い。
- 「A数と式」では、解の導き方だけでなく、調べたり、意味を確認したりする活動を取り入れ、数に対する見方を広げたり、様々な数の性質について理解を深めたりできるようにする。また、既習の数の性質と比較したり、関連付けたりしながら、数の性質についての理解をさらに深められるようにする。

③理科

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	21	50	49.3	51
知識・技能	7	45.6	46.1	46.9
思考・判断・表現	14	51.6	51.0	52.3

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1(1)	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	44.4	44.2	45.8
1(2)	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	76.9	78.5	78.2
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	52.8	54.2	54.5
2(2)	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	39.6	40.8	40.5
2(3)	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	28.9	28.5	29.3
3(1)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	76.5	80.1	78.6
3(2)	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	59.0	60.2	61.0
3(3)	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	25.4	24.8	25.3
4(1)	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	74.4	74.5	75.5
4(2)	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を動かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	67.4	65.6	68.1

5(1)	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	17.3	15.3	16.1
5(2)	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	44.5	45.0	47.1
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	41.4	43.3	44.3
6(1)	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	45.2	48.0	46.8
6(2)	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	61.7	60.3	62.1
6(3)	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	36.8	34.2	36.3
7(1)	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	38.3	35.9	39.3
7(2)	実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	55.6	53.4	55.1
8(1)	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	59.4	55.2	58.5
8(2)	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる	56.9	55.1	58.5
8(3)	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	38.5	39.2	39.8

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

○四分位の正答数内訳では、全国とほぼ同様の割合になっている。

○観点別では、思考・判断・表現が全国の平均より高い。

○問題別では、「アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる」の項目が、全国より4ポイント以上高い。「化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる」の項目については、**全国よりの3ポイント以上低い**。

●原子や分子のモデルを基に、身近にみられる化学変化を化学反応式で表す活動を通して、微視的な事象も実感を伴って理解できるようにする。また、粒子モデルで表す有用性を実感できるようにし、身近な現象を科学的に探究できる力を育む。身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えられるように指導する。

6 質問紙調査結果

(1) 児童生徒質問紙 【授業をデザインする8つ(2022年度重点の4つ)の取組に関する項目】

見通しをもたせる導入

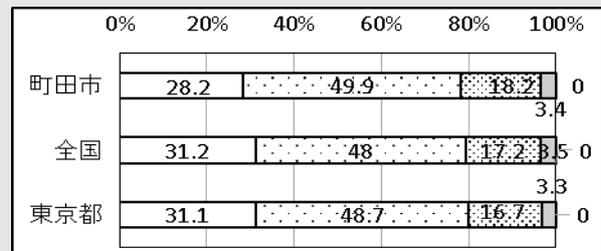
- ① 5年生まで(小学校)に受けた授業(中学校は1、2年生)では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】

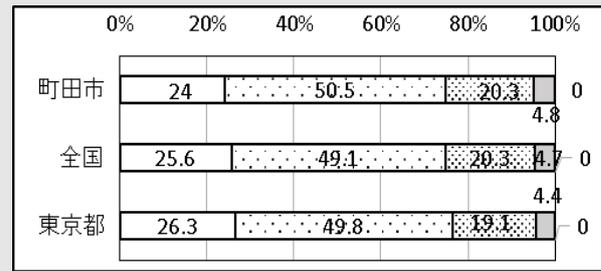
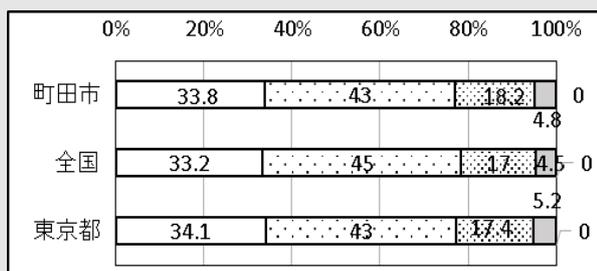


【中学校】



振り返りの設定

- ② 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

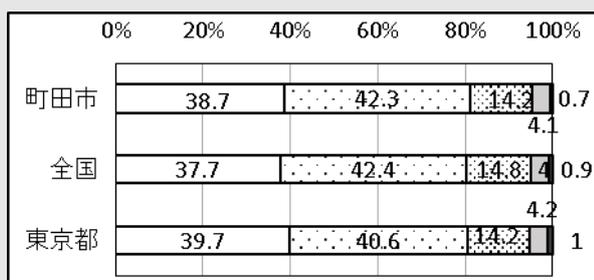


価値ある対話の共有

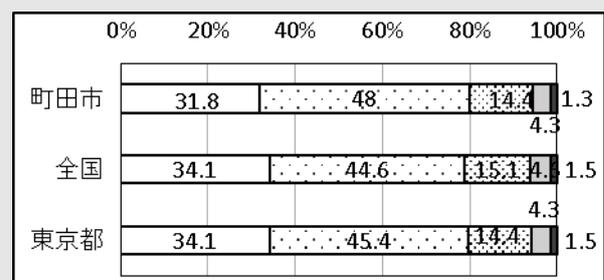
- ③ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」「学級の友達との間で話し合う活動を行っていない」の順に並んでいる。

【小学校】



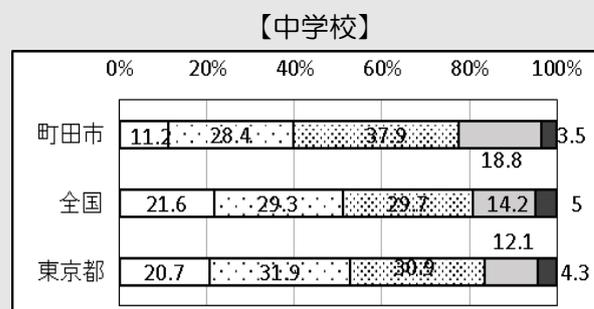
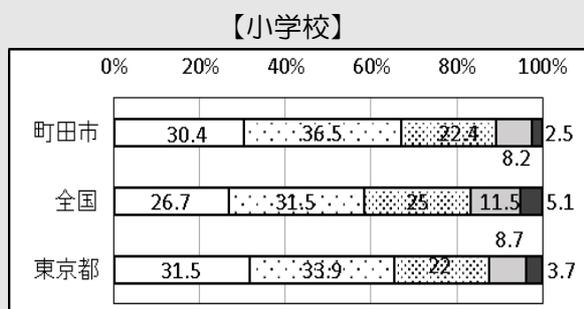
【中学校】



ICTの活用

- ④ 5年生まで（小学校）に受けた授業（中学校は1、2年生）で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。



【分析（○）と今後について（●）】

- ①の「見通しをもたせる導入」に関する設問、②の「振り返りの設定」に関する設問に関しては、肯定的意見の割合は、全国及び東京都と同程度である。
- ③の「価値ある対話の共有」に関する設問は、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学校で81%、中学校で79.8%であり、全国及び東京都を上回っている。
- ④の「ICTの活用」に関する設問では、小学校においては全国と比べても使用頻度は多いが、中学校においては全国と比べて使用頻度が少ない。
- 各項目を関連付け、授業をデザインする8つの取組を更に推進していく。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ったICTの効果的な活用についても検討し、更に推進を図る。

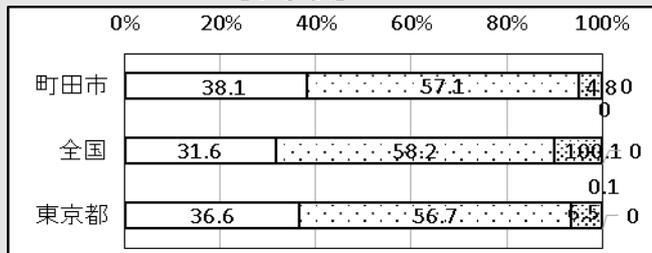
(2) 学校質問紙 【授業をデザインする8つ(2022年度重点の4つ)の取組に関する項目】

見通しをもたせる導入・振り返りの設定

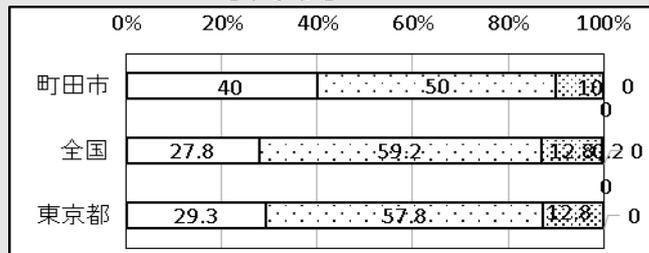
- ① 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか。

※左から学校の回答内容 「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の順に並んでいる。

【小学校】

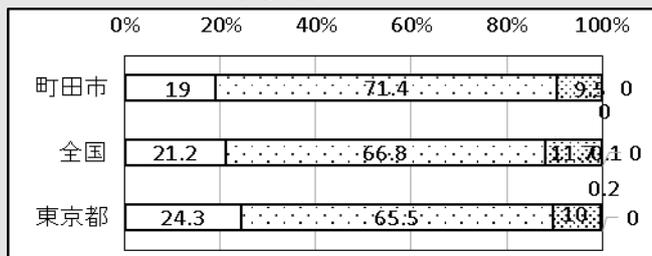


【中学校】

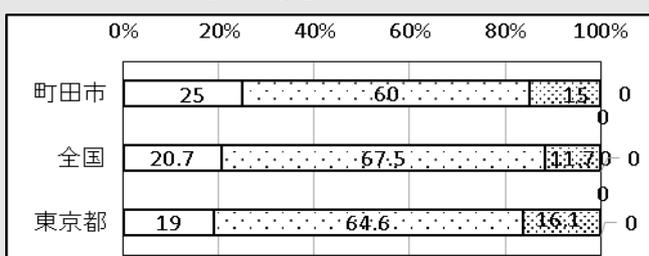


- ② 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

【小学校】



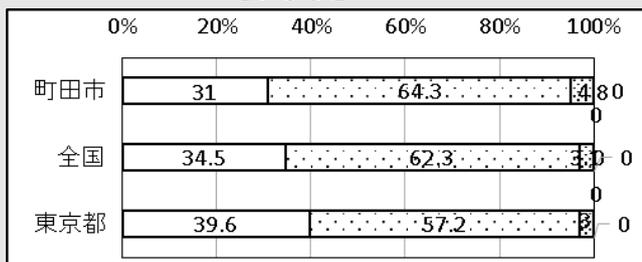
【中学校】



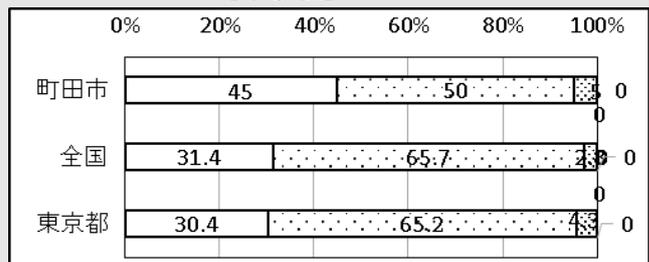
価値ある対話の共有

- ③ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

【小学校】



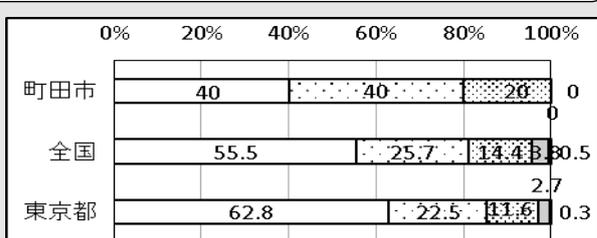
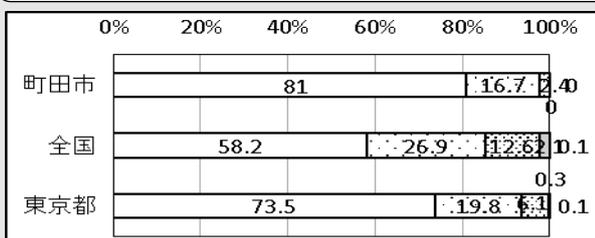
【中学校】



ICTの活用

- ④ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

※左から学校の回答内容「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。



【分析（○）と今後について（●）】

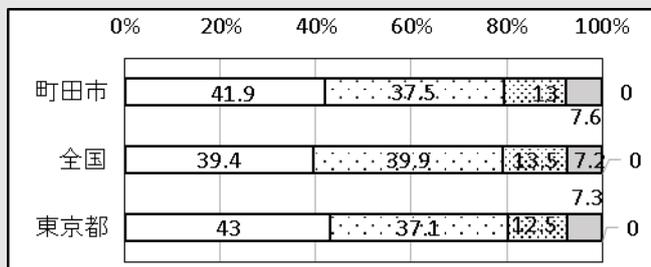
- ①の「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」に関する設問では、肯定的な回答が小・中学校ともに全国や東京都の回答を上回っている。
- ②の「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」に関する設問では、中学校においては「よく行っている」の回答が全国及び東京都を上回っている。また、小学校においては、肯定的な回答が全国及び東京都の回答を上回っている。
- ③の「価値ある対話の共有」に関する項目については、中学校において「よく行った」の回答が全国及び東京都を大きく上回っている。
- ④の「ICTの使用頻度」に関する設問では、小学校における使用頻度が全国を上回っているが、中学校における使用頻度は全国を下回っている。
- ①や②の項目における肯定的な回答が全国や東京都と比較しても高いことから「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に努めていることがわかる。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図っていく必要がある。
- ③の「価値ある対話の共有」について、中学校においては、教師の意識としては、「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導ができてい」と捉えている割合が高い傾向であるが、生徒の回答と比べると、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができてい」と感じている割合は低い傾向にある。今後、教師は児童生徒相互の対話の中で、思考を深めたり広げたりできるような発問や指導を工夫していく必要がある。
- ④のICT活用の頻度は小学校においては全国及び東京都の回答を大きく上回っている。しかし、中学校においては全国及び東京都を下回る。今後は、どの教科においても一人1台端末を活用できるよう授業改善の推進を図る必要がある。

7 児童・生徒質問紙調査と教科（平均正答率）クロス集計から相関関係があるという項目で、かつ、町田市として肯定的回答が低い傾向の項目

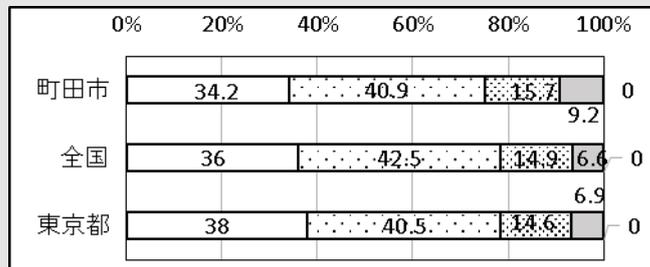
※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

① 自分には、よいところがあると思いますか。

【小学校】

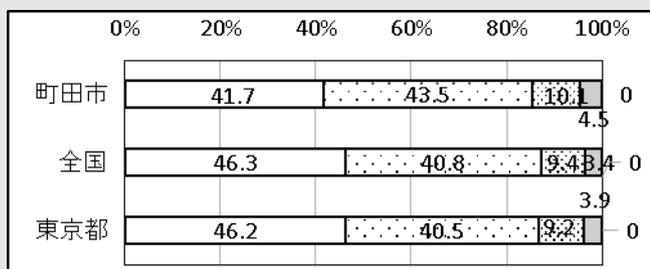


【中学校】

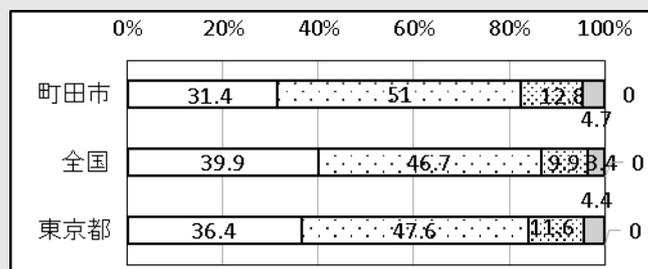


② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【小学校】

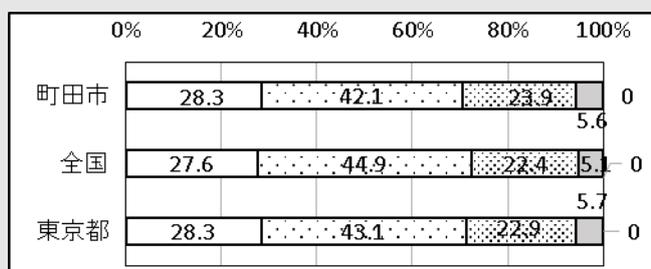


【中学校】

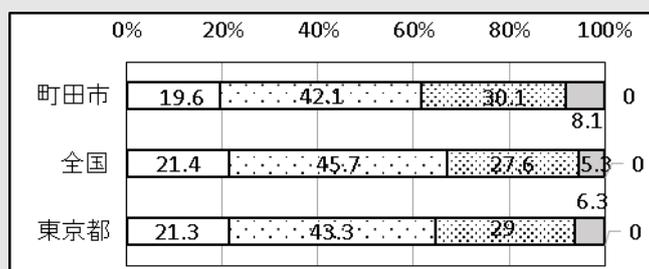


③ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

○①から③のどの項目においても、小学校より中学校の方が肯定的な回答の割合が下がる傾向にある。

○①の「自分にはよいところがある」の項目は、中学校においては、肯定的回答が全国よりも3.4ポイント低い。

○②の「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の項目は、中学校においては、肯定的回答が全国よりも4.2ポイント低い。

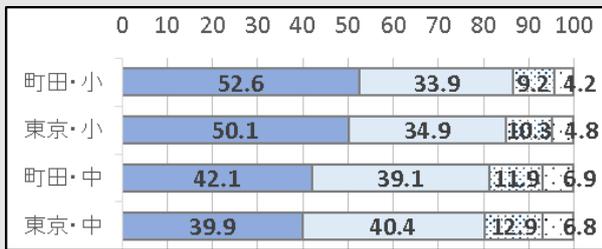
○③の「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の項目は、中学校においては、肯定的回答が全国よりも5.4ポイント低い。

●①や③の肯定的回答の割合を上げていくためにも、教師が子どもたちのよさを認め、価値付けるとともに、それを子どもたちに伝えていくことが必要である。

8 東京都「令和4年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果との関連

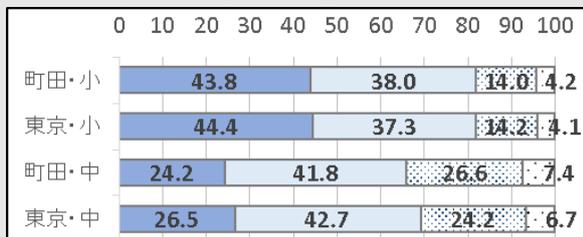
※左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

(1) 学習の動機 ※東京都の回答の割合と差が大きい項目を抜粋
分かることやできることが楽しいから。

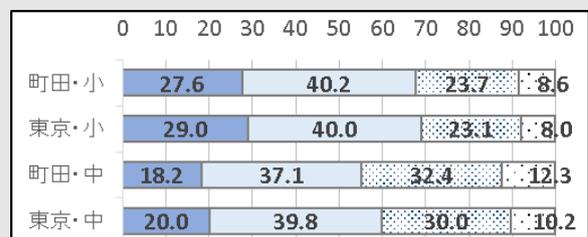


(2) 学習の進め方(教科共通) ※東京都の回答の割合と差が大きい項目を抜粋

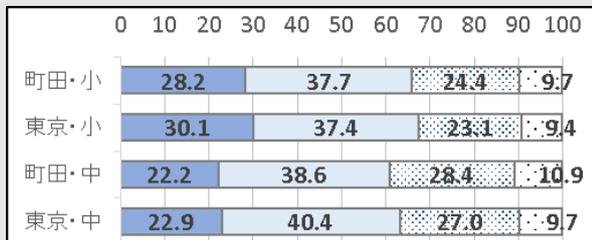
①難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。(項目(2))



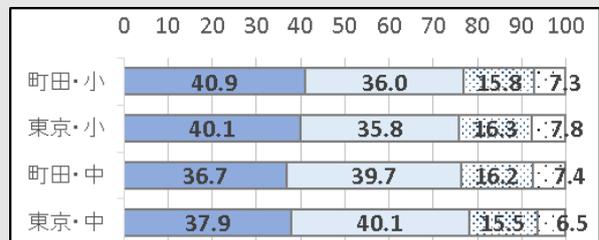
②どうやったらうまくいくか考えてから学習を始めるようにしている。(項目(5))



③学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。(項目(7))



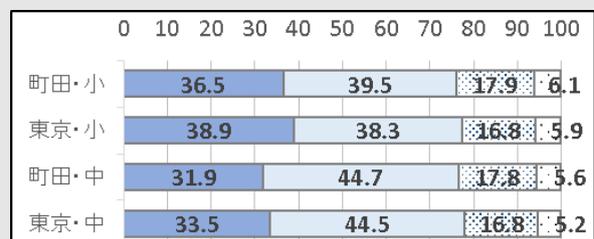
④分からないときは、他の人や先生に質問して解決している。(項目(10))



⑤どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している。(項目(14))



⑥答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している。(項目(15))



【分析（○）と今後について（●）】

- 学習動機「分かることやできることが楽しいから」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 1.7 ポイント、中学校では 0.9 ポイント高い。
- 学習の進め方①の「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる」の項目は、肯定的回答が東京都より中学校では 3.1 ポイント低い。
- 学習の進め方②の「どうやったらうまくいくか考えてから学習を始めるようにしている」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 1.2 ポイント、中学校では 4.5 ポイント低い。
- 学習の進め方③の「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 2.6 ポイント高い。
- 学習の進め方④の「分からないときは、他の人や先生に質問して解決している」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 1 ポイント、中学校では 1.6 ポイント低い。
- 学習の進め方⑤の「どうしてそうなるのかという理由を考えながら学習している」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 0.6 ポイント、中学校では 1.3 ポイント低い。
- 学習の進め方⑥の「答えだけでなく、考え方も確かめながら学習している」の項目は、肯定的回答が東京都より小学校では 1.3 ポイント、中学校では 1.4 ポイント低い。
- 学習動機「分かることやできることが楽しいから」については、肯定的回答が東京都の平均より高い傾向にある。しかしながら、学習の進め方については、肯定的回答が東京都の平均より低い傾向である。「学習動機」及び「学習の進め方（教科共有）」と「各教科の授業の内容に対する理解の程度」には相関があると東京都教育委員会の分析からも示されている。今後も子どもたちが「できる」「わかる」と感じられるように授業改善を推進していくとともに、授業をデザインする8つの取組をに基づき、授業の導入時には、「どのように解決していくか」「分からない時にはどうするか」と、学習の進め方の見通しをもたせたり、授業の終末時には「どうしたら解決できたか」「次はどうしていくか」などの振り返りをして、身に付けた学習の進め方を確認したりする必要がある。

9 調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- (1) 調査結果を踏まえ、学力向上推進委員会にて、小中学校の教科等で授業をデザインする8つ（2022年度重点の4つ）の取組に関する項目を意識した授業実践を行い、デジタル版実践事例集を作成して、各学校で授業改善の参考資料として活用するように周知する。
- (2) 町田市スタンダード授業改善シートを活用して、各学校が授業改善推進プランを作成するとともに、組織的な授業改善のPDCAサイクル化を図るよう教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。
- (3) ICTの活用については、教員及び児童生徒を対象に実施した市独自のICT活用状況調査の結果を踏まえ、児童生徒の学びを深めるツールとして、教員が授業の中で積極的にICTを活用することができるように、マスターラーニング（スリートスマート作成サイト）の掲載内容及びICT活用研修等の研修内容のより一層の充実を図る。
- (4) 自己有用感や学習動機を高めるための教育の在り方や、学習の進め方（学び方）を身に付けさせる指導法についても検討していく。